

# ～身体拘束について考える事～

• 風ユニット

石原理乃、小田里花

**対象者：Nさん**

**性別：女性**

**生年月日：昭和8年2月14日 89歳**

**介護度：要介護4**

**入所日：令和2年2月29日**



**既往歴：心房細動、認知症、腰部脊柱管狭窄症**

**現病名：認知症**

# 拘束をする前の様子（夜間）



～2022年3月に撮った写真～  
夜間帯は特に動きが多くご自分で  
ベッドから起きられては、よくマット上に  
下りられていました。そのまま床の方まで  
下りられることも少なくなかったです。

お尻を引き摺りながら  
居室からフロアの方に  
移動することもありました。



# ～【抑制帯】取り組み経過及び結果～

・2022. 4/3～拘束開始(抑制帯)

↓約3ヶ月

動きが少なくなる～徐々に外していく  
(その際ベッドの横にはマットレスを置き転落倒の予防対策)

日中は車椅子⇒長時間の座位姿勢により

ズレが生じた

8月末に臀部左右坐骨辺りに褥瘡

← その時の褥瘡の状態

↓ 悪化予防の為...

**食事以外は臥床**

↓ 数ヶ月で褥瘡改善

(夜間) ベッドでの動きが減った



9/11

**抑制帯外す**

目標達成！

# 拘束を開始した経過 & 理由

入所当時は自立歩行(見守り)。

会話もしっかりされておりコミュニケーションもとれていました。

認知症も徐々に進み理解力、危険認識も弱くなっていき夜間ベッドから降り徘徊され、歩行も不安定で転倒し怪我を繰り返す様になりました。

日中は車椅子を使用しましたが、元々動く方でしたので自分で立ち転倒、怪我が多くなり職員同士で話し合い、ご家族にも相談した結果、夜間帯は抑制帯、日中の車椅子では抑制ベルトを使用し転倒からの怪我を防ぐ為に拘束する事にしました。

# 拘束廃止に向けた 取り組み経過及び結果

- 転落、転倒のリスクがなくなっていけるよう少しずつ拘束を外す事を目標として2022年4月3日より取り組みを開始しました。抑制帯を使用して3ヶ月位してから動きの制限がある事で起き上がりが少なくなってきました。記録に残し職員と話し合いながら動きがない時は外せる時間を作り徐々に外していくようにしました。その際、ベッドの横にマットレスを置き転落倒の予防対策をしました。日中は車椅子で過ごしていた為、座位姿勢で長時間同じ姿勢でいたことでズレが生じた事により8月末に臀部左右坐骨辺りに褥瘡ができ食事以外は臥床する事になりました。日中も動きが少ない時は拘束を外してました。ミーティング等で普段の様子を職員に聞きながら話し合い動きも減ってきた事で抑制帯を外してもいいのではと、ご家族にも説明し了承して頂き9月11日拘束を外しました。車椅子では座位姿勢なのでいつ前傾し転落するかわからないので抑制ベルトは外せませんでした。

# 拘束廃止に向けた 取り組み経過及び結果(続)

機能訓練士と相談しながらリクライニング車椅子に変更して様子を見てきました。4ヶ月後、職員と機能訓練士と話し合いリクライニングを調整していけば抑制ベルトは外せるのではとの事でご家族にも説明し1月30日拘束を外しました。

結果→臥床時、車椅子使用时共拘束を外す事ができました。外した際、転倒、転落リスクはないとは言えないので気を付けて様子を見ていきたいと思えます。

# 【ベッド上での対応】



## 筋緊張緩和、筋拘縮

両足の筋拘縮が強く膝が胸元まで付いてしまい  
右下肢が内転しているのでベッド上では両下肢  
の間にクッションを入れる等の対応をしています。

# 【フロアでの対応】

座面の傾きが最大になるようにティルトをして  
体幹が40～50度になるようにリクライニング



# 【実際に職員が身体拘束を体験】

1人5分程職員が実際に拘束を体験して感じたこと

## 【抑制ベルト】

- ・ 5分が長く感じた
- ・ 嫌な気持ちになる
- ・ 圧迫感を感じる
- ・ 違和感がある
- ・ 人目が気になる

## 【抑制帯】

- ・ 違和感、圧迫感がある
- ・ 寝返りができない  
↓  
(腰、身体の負担)
- ・ 不安感がある
- ・ 時間が長い

# 感想

拘束をするということは決して良い事ではありません。  
ご本人はもちろん、そのご利用者のご家族も良い思いはしません。  
なるべく拘束はしたくないですがその人の安全(転倒防止等)の為に  
行っていると思うと正直どうして良いのかわからなくなります。  
今回挙げたNさんは抑制帯、抑制ベルトを使用、長期間に渡り  
どちらとも拘束を外す事ができました。  
しかし、ご本人はリクライニング上でも動きがある為、安心はできません。  
現在は日中はベッド上対応で食事時は  
全員の配膳が終わった後、職員2人介助で移乗しています。  
今後も注意を払い安全に生活ができるよう支援していきたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。